

チベタン・チルドレンズ・プロジェクト

2016年 運営報告書



2016 年決算の解説

2016 年の決算については前頁の通りです。ネパール大地震と経済封鎖に見舞われた 2015 年を思うと、本当に平穏な 1 年でした。経済的、社会的混乱もかなり解消し、徐々に落ち着いた生活を取り戻すことが出来ました。運営も全般的には安定しておりましたが、収支に関しましては、代表の交代による登録変更手続きの諸経費の増加、診療所の施設への投資、また会費未納のサポーター様の増加による収入減など最終的には 675,481 円の赤字となりました

施設別に見て行くと、クンデ・ハウスの支出は昨年に比べて、ネパールルピーベースで約 1.2 倍に増えています。これは物価の上昇による増加です。本年はルピーに対する円のレートが

強かったため (2016 年の為替レートの平均値 : Rs.1=1.018 円、2015 年 : Rs.1=1.224 円) に日本円での収支自体の赤字が少なく見えておりますが、非常に危機感を感じております。

チベット予防医学室は、一昨年は 447,138 円の収益を上げておりました。大半が外国人の診察代金からの寄付金と、海外向けのお香、薬湯などの物品の販売によるものでしたが、昨年の地震と経済封鎖以降は外国人の訪問が減り、本年も引き続き大きく収入を減らす状態が続いています。

今年度は代表の交代により、政府と銀行への登録事項の変更を弁護士を通して行ったため、ネパール現地事務所の支出が大きく増えました。これらの要因で収支は大きな赤字となってしまいました。



2016 年 運営の報告

1 年間の主な出来事を下にまとめてみました。

2016 年の運営を時系列で振り返りたいと思います。

2016 年の主な出来事

- 4 月 アチャ・イシ卒業
- クンデ・ハウス全員進級
- 9 月 剣道教室再開
- 12 月 ネパール教育省査察
- 代表がチベットへ帰還



◆ アチャ・イシ卒業

これまで 3 年半に渡り、クンデ・ハウス専属のスタッフとして TCP に尽力してくれたアチャ・イシが独立し、インドで新しく事業を起こしました。アチャ・イシの独立に関しては昨年の運営報告書でも述べさせて頂いた通り、若さと可能性が存分に発揮できる環境に身を置いて働くようにと、数年前から相談にのり独立を後押ししてきました。TCP の仕事の合間に様々なスキルを磨き、当初の計画通り万全の準備を整えて新たな進路に旅立ちました。

現在はダラムサラでレストランを経営し、短期間で繁盛店へと成長させています。また、ブッダガヤでチベット仏教の各宗派の大規模なティーチングが開かれる 2 か月の間は、ダラムサラの店を一時休業し、多くのチベット人でぎわうティーチング会場の近くに臨時レストランを開店し、こちらも非常に繁盛させています。

彼女にはもともと、非常にビジネスの才覚がある様子です。

TCP でのスタッフを足掛かりに、地道な努力で独立を果たしたアチャ・イシは、子ども達にとって本当に良いお手本です。インドから広い世界の一端を見せてくれる彼女の日々の報告は、子ども達の刺激になり、同じ難民としての具体的で身近な成功例として大きな励みとなっています。

アチャ・イシの独立後、クンデ・ハウスのスタッフを補充すべく様々なルートで募集しましたが、勤勉で信用に足る人物をなかなか探し出せませんでした。また想像以上に子ども達が新しいスタッフの加入に抵抗感を示しました。特に年齢が大きい子ども達は、思春期という微妙な時期でもあり「今から全く知らない人と生活全般を共にする事がイヤ」との事でした。クンデ・ハウス自体が既に一つのファミリーとして機能しているので、子ども達の抵抗感も非常に納得できました。

加えて「これまでのアチャ・イシの仕事は全部、私達で分担する（ので新しいスタッフを入れないで）」との提案もあり、そこまでの思いであれば少し様子を見ようとの結論になり、現在まで新規の専属スタッフの採用を見合わせています。

子ども達の家事分担はさらに増え、学業や習い事との両立は大変ですが、今のところ何とか日々、運営出来ている状態です。結果的にアチャ・イシの卒業によってさらに子ども達の家事能力、生活能力が高まりました。また最年長のダワが調理の責任者として台所を仕切るなど、各人の役割分担が子ども達の中でより明確になり、責任を自覚して仕事をする態度が身に付いて来たように思います。



♪ クンデ・ハウス全員進級

新学期には、クンデ・ハウスの全員が新しい学年に無事に進級しました。以前は、ネパールの学校は一般的に進級テストに合格出来ないと小学校でも留年になりましたが、学校側で進級に関するルールの改正により様々な救済措置が行われ、試験の成績のみでの合否の判断ではなくなりました。苦手なネパール語を始めいくつかの教科に合格できなかった子どももいましたが、全員が進級しました。

♪ 剣道教室再開

2014年から武道館でお稽古を始めた剣道教室ですが、ネパール大震災により講師の方々が被災され、教室再開の目途が立たない状態になりました。子ども達から「剣道をやりたい」という強い要望があり、2015年はクンデ・ハウスをご訪問頂いた日本大使館の小川大使に、JICA等の協力を仰ぎ、日本から講師を派遣して頂けないかとお願いをしてきました。

日本人講師による直接指導を渴望してきたネパール剣道界の願いもあって、2016年は日本から佐々木先生がご指導にいらして下さる事になり、段階的に剣道教室が再開される運びとなりました。

10月の学校の長期休暇には、毎日4時間、ボランティアで剣道をご指導ください、子ども達は集中して充実したお稽古に励むことが出来ました。



また同月にはテレビ取材を受け、剣道指導の様子がネパールで2回に渡り放映されました。剣道自体をあまりよく知らなかつた学校のお友達も、その凛々しいお稽古の様子は非常に印象的だった様で、以後、子ども達は学校で一目置かれる様になり、ますます自信を得て剣道に励むようになりました。

しかし大震災で被災した武道館の改修工事により、2016年の後半は武道館が使用できなかったため、屋外の駐車スペースでのお稽古になるなど、練習環境が整うのは少し先になりそうです。

♪ ネパール教育省の査察

政府の認可・登録を得ている TCP は、毎年その運営状況が適切であるかどうか監査を受けます。通常の監査はこれまで 7 月に行われて来ましたが、本年はこれに加えて 12 月に抜き打ちの査察が行われました。加藤が日本に一時帰国している 10 日ほどの間に、複数の検査官によって立ち入り検査が行われました。



これまで指摘を受けていた、男女の部屋を別棟にするという指示は、子ども達の年齢も上がってきていた事もあり、次年度には必須の是正事項とのお達しでした。またこれに加えて今回は、男女の食事スペースを別にする事も指示されました。これに関しては男女の扱いが不平等な古いネパール的な風習の影響があると感じており、内容的には承服しかねるものですが、是正が見られないと運営許可が取り消されてしまうため、何らかの措置を講じて検査が通る形を整えたいと思います。

また職員の数が絶対的に少ないと指摘も受けました。通常、この規模であれば、職員は 4 ~ 5 人必要との指摘でした。

さらに施設用の車がない事に関しては指摘を受け、監査官からすれば「あって当然」とのことでした。もちろんあるに越したこと無いのですが、ガソリンやメンテナンスの経費などまで考えると現在の TCP では優先順位が低いため、この指摘に関してしばらくは、改定事項にならない様に話を進めたいと考えています。

その他、ガードマンを置く事、NGO の登録証をもっとわかりやすい位置に掲示する事、外部の看板(現在は門扉にプロジェクト名を明記)をもっと目立つ大きなものにする事、外国人スタッフは施設内に同居禁止などの指摘を受けました。いずれも必要な策を講じて、次年度の 7 月の監査までに改善を完了、もしくは改善中であることを認めて頂けるようにします。



♪ 代表がチベットへ帰還

昨年の運営報告書の中でご報告をさせて頂いておりました通り、TCP 代表のケンポが 2016 年末、チベットに帰還されました。安全にチベットに戻られたことを確認の上でお伝えすべきと考えて、ネパール出発についてはサポーターの皆様にお伝えせずにおりましたが、本報告書を取りまとめて 2017 年 1 月、無事に故郷に到着された事が確認できましたので、ご報告させて頂きます。

代表は地震の前から修行に最も適した環境を熟考されており、より行を深めたいと思っておられましたが、震災で住居を失った事もあり、これを機にチベットに戻り、かの地から世界の平和を祈念することに専心したいとのお考えで準備を進めてこられました。多くの僧や行者が口にするように、やはり修行にとって最も適した土地はチベットなのです。行者として最大限、有益な形で世界の平和に貢献したいという信念を貫かれての帰国です。

これを機に、ネパール政府への登記上のプロジェクトの運営者であるシェラップ(アムチ)を代表とさせて頂きます。プロジェクト全体の仏教的、かつ精神的なよりどころのアドバイザーとしてこれまで代表がやって来られた仕事は、加藤と古くから信頼関係のあるボダナートの僧院長ケンポ・カサンにお願いします。



♪ その他のご報告

ここでは、この1年の大きな出来事以外に、サポーターの皆様にお伝えすべき内容について、ご報告をさせて頂きます。

里親さんのご訪問

本年は7名の子ども達の里親さんが、ネパールをご訪問下さいました。初めて里親さんと対面する子どももいて、面会までの日々の喜びを抑えきれない様子は、周りから見ても本当に嬉しくなる程でした。日本からは直行便が無いためトランジットを経て不便なネパールまでわざわざ時間を割いてお越し下さり、本当にありがとうございます。

これまでの報告書でもお伝えしてきたのですが、里親さんと面会した後の子ども達は、自分だけを見てくれて、また特別だと思ってくれる人がいる事を肌で感じ、内面の深い部分が存分に満たされる様でみんな自信に満ちて行動や言動がゆるぎなくなります。もちろん日々、スタッフも愛情をもって子ども達に接していますが、この「一瞬で全てが満たされる」という説明しがたい心の充実は、やはり里親さんにしか与えられないものだと感じています。全ての子どもに里親さんがいて下さり、子ども達の成長を暖かく見守って下さる事に、改めて御礼を申し上げます。

学習環境

本年は学校も完全に通常運営に戻り、1年間無事に通学することが出来ました。ただ月に2～3回行われるバンダ（ゼネスト）により、前日や当日の朝に休校が伝えられる事があり、またその休みも数日にわたる事もあり、授業日数が削られてゆく事、またその分の補習が行われない事には不安を感じています。

クンデ・ハウス内ではアムチによるお経の暗唱の他に、アムチを目指す子ども達のためのチベット語講座、チベット薬の基礎知識講座を新たに開催しています。現在7名がこの特別講座で学んでいます。

日本語はエリ先生のご指導の元、着実に能力を伸ばしています。日本語が得意な子どもは、日常会話の受け答えが可能ですし、漢字を交えた手紙を書く事もできます。

学習全般について、総じて女子は意欲が高く真面目ですが、男



子は未だ学習に対しての姿勢が整っておらず、いわゆる「やる気スイッチ」が入っていない事が、こればかりは個人のタイミングがあると思うのでしばらく状況を見守りたいと思います。



様々なご支援

サポーター会員様以外からもHPやブログを通してアクセス頂き、様々なご協力のお申し出を頂きました。3月には九州のK様より、デジタルカメラ5台と充電器、取扱説明書をご寄附頂きました。TCPがHPで不要になった中古品を募集している事に気付いて、ご連絡を下さったのでした。

12月にはY様より子ども達全員に、手編みの毛糸の帽子をプレゼントして頂きました。Y様とは実に1年にも渡ってやり取りをさせて頂き、サイズを実測し、子ども達の希望した色で編み上げて下さいました。帽子の受領後はネパールとY様をFacetimeで繋いで、子ども達から直接お礼を伝えさせて頂きました。



昨年に引き続き本年も、クラウドファンディングサービスREADYFOR様より、海外特集の支援事業にお声掛けを頂きました。READYFOR様はこれまでに4,700以上のプロジェクトを掲載し、日本国内で最大の実績を誇るクラウドファンディングサービスです（サイトURL：<https://readyfor.jp/>）。

資金調達を達成するためのきめ細やかなフォローもあり、信頼を寄せている組織なのですが、ネパールを見回すとTCP以上に短期で資金調達を必要とする組織があり、そちらを優先いただく様に別のチベット支援プロジェクトをご紹介させて頂きました。

物価と暮らし

IMFによる2016年10月時点の推計によりますと、ネパールの消費者物価指数の前年に対する上昇率は10.02%です。2010年以降(地震と経済封鎖の影響を受けた2015年の数字を除く2010～2014年)の平均で9.3%のインフレです。



昨年はブラックマーケットの取引が当たり前のように行われていたネパールでしたが、状況はかなり落ち着いてきました。しかしながら全ての物価は確実に上がっています。

大地震と経済封鎖があり物価が異常に高騰した昨年と比較することが難しく一概にはご報告できないのですが、生活上の実感としては食品の値上がりが激しいと感じます。特に穀物の値段が高くなりました。一般にネパールの家庭料理でもよく使われるチャナ豆(ネパール産)は、5～6年前は1kgあたりRs.50～60だったものが、1年前にはRs.130～140、2016年12月現在ではRs.240です。地震後の価格よりもさらに激しく値上がりし、それでも品切れしていることが多い状況です。オーストラリア産のチャナ豆は安定して供給されていますがRs.280/kgと高く、一度の食事で2kgの豆を消費するクンデ・ハウスでは、購入を躊躇してしまいます。

調理用の燃料を薪に頼らなければならなかった昨年は、大人数の食事を準備する事が困難で少ない燃料で準備できる食事が多かったため、子ども達も地震後のストレスと相まって食が進まず、体重が増えなかったり減った子どももいましたが、今年は食料もエネルギーも入手可能な状況となり、食の充実をはかる事が



出来ました。昨年は入手のために数日も行列に並び、それでも購入できなかったガスですが、今年は政府の調整もあってか常に価格と供給量が安定していました。

インフレの影響を受けて、毎年子ども達の学校の授業料も約10%値上がりしています。

ネパールと言えば激しい停電が当たり前になっていますが、10月以降、停電時間がかなり短くなりました。これまでネパール国内の電力は、官僚と一体となって利権を得た特定の企業や工場に横流しされているとされ、そのために一般には極端な電力不足を招いていたのですが、これが是正されたために停電が非常に少なくなりました。是正された理由は「これ以上、国内を疲弊させてはならない」というインドの進言と圧力によるものだとささやかれています。いつまでこの状況が続くのか保証はありませんが、ろうそくに頭を寄せ合って勉強をする子ども達にとっては本当にありがたい事です。



TCPの名称について

TCPは2012年10月にNGOとしての運営許可と登録を行いこの際、サポーターの皆様にはTCPの正式名称についてご報告をさせて頂いているのですが、その後に入会されたサポーター様もいらっしゃいますので、今一度、確認の意味を含めてNGOとしての名称についてご案内をさせて頂きます。

2009年に「Tibetan Children's Project」として活動を始めましたが、ネパールに於いてプロジェクト名は登録上「Twinkle Children's Program」となっております。これは登録した当時、ネパールでは「チベット」と名前を冠したもの、それに類するものに対して、NGOの認可を下ろすことが出来ないと指導によるものです。また運営実態が、プロジェクト(Project)というにはあまりにも小規模であるとの指摘を受け、こちらはプログラム(Program)に改めるようにとの指導を合せて受けました。NGOとしての認可はプロジェクトの安定した運営のために必須と考え、認可を受ける事を最優先に考え、全ての指導に従う事にしました。しかしこれはあくまでも登録上の仮の名前との位置づけで、その後もプロジェクト自体は「Tibetan Children's Project」と名乗って運営しております。



クリニックの運営状況

これまで設立以来、その運営の趣旨から日本語では「チベット予防医学室」としてきた診療所の名称を、ネパールでの登記名に準じて「クンデハーバルクリニック」と改めさせて頂きます。

本年は平均して毎月約 120 名の患者様にご利用頂きました。設立当初、受診されるのはチベット人のみでしたが、最近ではアムチの腕の良さが口コミで広がり、現地の在住者の利用状況はネパール人とチベット人が半々です。またこのうち 3 割程度の診療、投薬を無料でご提供させて頂いています。また本年は薬湯施設を再開し、ご利用頂いています。

ネパール大震災の後、ラスワに医療支援に行かせて頂いたご縁で、その後もラスワの方がカトマンズにいらっしゃる際に診察を受けに来られ、お越しになれない方々の分もチベット薬を持ち帰られます。

医療支援後、村の方々から「仮設の診療所を準備するので、ひと月に数日で良いので診療に来てもらえないか」と熱心にご依頼を頂いておりましたが、TCP には車が無く、医薬品の準備や運搬などの自己負担を考えると安易にお引き受けできない状況です。

地震以前からも山間部にはニセ医者の巡回診療詐欺が多く、医療知識が無いのに勝手な検査や投薬を行い、巨額の費用を請求されて騙されてきた村人たちにとって、しっかりと話を聞いて診療にあたり症状を改善させるアムチは、心身共に健康を管理してくれる心強い存在の様です。今後もまずは診療所の安定した運営を軸としながら、山間部の支援について出来る事があれば、ご協力させて頂きたいと考えています。



スタッフについて

現在、TCP はアムチであるシェラップ・ギャルツェンを代表に、現地施設ではシェラップと加藤ちあきが専属スタッフとして、また事務局として石川幸 (在シンガポール)、増田あき子 (在日本) の体制で運営をしております。これらのスタッフには、TCP より給与は支給しておりません。これは各人の「TCP の仕事は一切が菩薩行」という仏教的な動機により、全て無償で活動しております。

ボランティアであっても運営自体には大きな責任を負って仕事をしておりますので、よりよい運営のためにも、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せ下さい。TCP は目の前にある問題に対して止むに止まれず行動することから始まった組織であり、スタッフは社会福祉事業に特化したスキルを持っている訳ではありません。そのため至らない部分も多いと思います。今後もぜひ、皆様のご指導を賜りたいと思っております。

現在では専属に近い形でクンデ・ハウスのお世話をして下さっているエリ先生は、ビザの都合でネパール滞在が 2017 年 7 月までとなります。アチャ・イシの卒業に続きスタッフの数が少なくなりますので、来期は相応しい人物の獲得に努めたいと思います。



2016 年を振り返って

2016 年 12 月末現在のサポーター会員は、里親サポーター 16 名、月間サポーター 42 名、年間サポーター 13 名です。多くのサポーター様方のご支援に、改めまして感謝を申し上げます。

地震、経済封鎖と大きな出来事が続いた 2015 年に比べると、何事があっても些細に思える 2016 年でした。1 年を総括すると、本年の目標であった「安定した運営の継続」「子ども達の教育の充実」は着実に実行できたと考えています。

2017年運営の指針

2017年の運営は下記の項目に力を入れたいと思います。

- ① クンデ・ハウスの施設整備
- ② 子ども達の進路指導の充実

① 年末のネパール教育省の監査における指摘事項に基づき、クンデ・ハウスの施設について整備をしたいと思います。

具体的には、男女の寝室を別棟にするためプレハブ住宅を早急に建設します。数年前から何度もモデルを見学し見積りを取ってきてているのですが、かなりまとまった額の支出になるため決断できずになりました。しかし抜き打ちの査察で必須事項との通達でしたので、最優先で建設を進めます。

またこれまで地震後の復興のため、建築資材の高騰、職人の不足などがあり、地震で強度の弱まったレンガ積みの壁の補修が出来ずになりましたので、こちらも合わせて取り組みたいと思います。

昨年もお伝えしたのですが、プレハブの建設ではなく、男女別棟が実現できるようさらに広い物件を探して引越すという事は、選択肢として考えておりません。まず、これ以上の大きさの物件が少なく、孤児院であるという事だけで物件の賃貸が非常に難しい現状に加えて、ここ数年、賃料がうなぎ上りで貸し手が有利な状況を考えると、引越しと言う選択は非常に難しいためです。

現在の建物のオーナーは、経済的に裕福な海外在住のネパール人であり、長期の契約にも応じて頂き、様々な入居時の契約が確実に履行されるという、これまでにない安心感と信頼感があります。既に数年前より増築のお話を進めさせて頂いており、建設可能な敷地もあり、オーナーの最終的な許可も得られる状況の為、この良好な関係性を維持しつつ現在の場所でクンデ・ハウスは運営を継続したいと考えています。



② これからも優れた人材を育成するために必要な教育や体験は、積極的に行いたいと考えております。難民にとって一番大きく未来を変えるカギは教育にあります。子ども達がそれぞれの

人生を充実したものにすると同時に、チベットの未来を明るくする希望となるように、教育には惜しみなく取り組みます。

しかしながら実際には良い資質を持っていても、それが学校の基準で評価されない子どももいます。特に年齢が大きくなつてから亡命してきた子どもは、教育を開始する適齢期に基礎を学んでいない為、学校の中では取り残されがちになっています。学校教育は大切ではありますが、それが全てだとは捉えておりませんので、それぞれの子どもの特性を見極めた上で希望を汲み、進路指導を行いたいと考えております。



2017年の年間目標は上記の通りですが、この他にも基本的な運営姿勢について、改めてお伝えさせて頂きます。

毎年の収支報告をお願いをしております、サポーター様のご見学の際の物資の持ち込みに関して、本年も皆様のご理解とご協力を賜りありがとうございました。新しくご入会を頂きましたサポーター様もおられますので、今一度、ご案内をさせて頂きます。

TCP現地をご訪問の際には、ご連絡を頂きました段階で個別にお伝えをさせて頂いておりますが、持ち込む物資について必



ぜひ相談ください。またご相談の上で決めたもの以外は、どのような些細なものでも決してお持込にならないでください。

特にクンデ・ハウスでは、持込の物資や子ども達へのプレゼントを厳しく規制させていただいております。「訪問者がある=何かいいものがもらえる」このような条件付けを子ども達にさせないための規制であることをご理解ください。また、まだまだ物質的な豊かさにおいて日本とは比較にならないネパールでは、日本から持ち込んだほんのちょっとしたものがとても目を引いたりします。子どもの誘拐事件（人身売買、移植用臓器の摘出が目的です）が発生している事もあって、子ども達の安全を確保するためには、目立たぬ事、地元並みである事が非常に重要であると考えております。

これはとても微妙な問題ですが、何かことが起こった時に、そのストレスの矛先がマイノリティーや弱い立場の人に向かう場合があります。TCPの現地施設は、加藤を除けば全員がチベット亡命者です。国を逃れ、ネパールに間借りさせていただいている身分です。ここ数年、ネパール国内の政治が混乱し、物価も急上昇して、国民の生活は目に見えて苦しくなっています。2015年のような大きな危機が何度も起こるような情勢の時に、自国民以上に難民が恵まれた暮らしをしていては、周囲から不満が起るのは当然のことと言えます。

このような理由から、TCPは「地元並みであること」「地元の方々との良好な関係性を作る取り組み」に力を注ぎ、努力と注意を払って運営しております。子ども達自身の安全のために、クンデ・ハウスへの持ち込み物資に関して事務局が厳しく規制をさせていただく事を、どうぞご理解を頂き、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

お菓子などのいわゆる消えモノや学習に関する道具も同様です。良かれと思ってお持込を頂いても、まったく環境も状況も違うネパールでは、それが思わぬ結果を招いたりします。どうぞ、必ず事前にご相談を頂き、TCPの運営姿勢にご協力をお願いいたします。

ご見学のお申し込みの増加に伴い、2014年より会員サポーター様以外のご見学を全面にお断りする方針とさせて頂いております。引き続き2017年も同様の方針とさせて頂きます。

チベット難民の現状への理解の一助となればと考えて、初期には積極的にサポーター様以外のご見学も受け入れて参りましたが、クンデ・ハウスへの物資の持ち込みなどに関して正しくご理解が頂けず、またご見学者様の意図がほとんどの場合「孤児院を訪問したという思い出づくり」でした。これは子どもたちにとって良い影響を与えないため、今後も特にクンデ・ハウスへのご訪問は例外なくお断りする方針です。

細かな点にまで、様々な規制を設けさせて頂いておりますが、趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

4月の大地震に続き、9月に公布された新憲法に絡んで経済封鎖による大混乱が起こった2015年の後では、何もかもが有難く平和に過ぎ去った印象の2016年です。しかし日々の生活に目を向けてみると、物価の上昇が激しく、社会的な不安が増しているように感じます。閉塞感に満ちた雰囲気は、時に潜在的な不満を表面化させる切っ掛けとなります。難民という立場であるという認識を忘れず、国に寄与できる事は協力し、ネパール社会に馴染み、今後も堅実にプロジェクトを推進して参りたいと思います。

2016年も無事にTCPを運営する事が出来ました。報告書をまとめる際には毎年、安堵と喜びと感謝でいっぱいになります。1年間、プロジェクトを支えて下さったサポーターの皆様に、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

